

当院の患者および職員を対象とした COVID-19 流行状況に関する観察研究(第3回調査)及びワクチン接種後の抗体獲得に関する調査

2021年11月10日公表

I. 当院の患者および職員を対象とした COVID-19 流行状況に関する観察研究(第3回調査)

【対象者】 外来通院患者 1,000 人、当院職員 809 人

【結果】

	2020年6月	2020年12月	2021年6月
当院職員	0/743(0%)	0/407(0%)	1/809(0.12%)
外来患者	1/1000(0.1%)	0/1000(0%)	0/1000(0%)
全検体	1/1743(0.06%)	0/1407(0%)	1/1809(0.06%)

当院職員 1 名 (0.12%) の抗体陽性者を認めた。この職員の感染に関しては把握していなかったが、職員が所属する部署から感染者は出ておらず、マスク・手指衛生・体調不良時には勤務しない・という感染対策の基本により感染拡大を防ぐことができた例と考える。外来患者 1000 名からは抗体陽性者はみられなかった。愛媛県の平均罹患率 (0.2%) に比べ低値であり、基礎疾患を持つ患者さんでは感染対策が厳重になされているのかもしれない。

II. 当院職員を対象とした新型コロナワクチンの抗体獲得に関する観察研究(第1回調査)

【対象者】 2021年3~5月に新型コロナワクチンを2回接種した当院職員

【結果】

	2回目ワクチン接種から採血までの日数	コロナ抗体力価(U/ml)
平均値	58日(25~69日)	1297(12~5124)

対象者全員で抗体力価の上昇が認められた。高い抗体獲得率を示し、有効性の高いワクチンである。

III. 当院職員を対象としたワクチン接種後の抗体獲得に関する研究

【対象者】 2021年3~5月に新型コロナワクチンを2回接種した当院職員のうち16名

【結果】



ワクチン接種による抗体価は、2回接種後1ヶ月の時点でピークとなり、以後ゆっくりと減少する。大量のウイルスに暴露される可能性のある医療従事者や重症化する可能性のある高齢者は適切な時期にワクチンの追加接種が必要と思われる。